

【全国米麦改良協会会長賞】

農家の部

愛媛県西条市

おちたかのり  
越智貴則 氏



## 1. 経営者及び経営内容

越智氏は、愛媛県を代表する穀倉地帯の西条市で水稻・麦・里芋を作付する専業農家である。父の水田経営を手伝っていたが、約10年前に専業農家となり、父の所有する農地及び借り入れしていた農地を借地契約し、水稻約5ha、麦約3haの栽培を始めた。

現在、氏は55歳で、妻、常時雇用1名に加え、水稻・麦作業として週3日の臨時雇用1名、里芋作業等臨時雇用3名で、経営規模は水田2,009a（うち借地1,966a）にまで拡大して、大型経営を行っている。

借地の拡大にあたっては、近接農家からの借地を積極的に受け、規模拡大を進めてきた。地域は商工地域であり、農業以外への就労機会が多く、高齢化や離農による貸し付け希望の農地を引き受けるなど、地域農業の維持発展にも幅広く貢献している。

表1 経営作目の概要

主要作目名	栽培面積	農家粗収益全体に占める割合
麦	1,012(a)	1%
水稻	1,835(a)	70%
里芋	32(a)	6%
雑収入		23%

表2 家族の労働状況

続柄	年齢	年間従事日数	うち麦作従事日数
本人	55	300日	30日
妻	52	200日	10日

## 2. 技術上の特色

住所地の周辺に管理農地があり、平坦で基盤整備（40a～100a/筆）が行われているため、大型機械での作業が可能である。はだか麦栽培は、収量、品質とも栽培年の天候に左右されることが多く、特に湿害対策が重要となる。そのため、水稻・麦の二毛作体系を基本としているが、当地区は海拔ゼロメートルや地下水位の高い地帯があり、農地の排水状況を見極め、排水対策を行っても湿害により麦作が難しいほ場では、水稻単作としている。

また、弾丸暗きよや明きよなどの排水や雑草、麦踏みや土入れ、生育に応じた施肥、病害虫防除など基本技術を励行し、収量・品質の高位安定化を図り、大型機械の導入や効率的利用、防除委託やントリーの利用により単位労働時間の短縮、コスト低減を実践している。

### （１）土づくりと湿害対策

土づくりは、稲わら・麦稈の全量すき込みに加え、苦土石灰を散布し土壌のpH 矯正を行い品質向上に努めている。また、里芋栽培前に豚ふん堆肥を投入して有機物の補充にも努め、地力の維持並びに湿害に負けない土づくりを心掛けている。

湿害対策として、ほ場整備で本暗きよを設置している水田に交差する形で弾丸暗きよを通常より狭い間隔（1.5m）での施工、播種同時に培土板で溝を上げていく明きよの設置によって、湿田を克服する排水対策に努めている。また、畝の溝と排水溝をしっかりとつなげることで長時間ほ場に水が残らないよう排水対策を徹底している。なお、耕起の際は中間管理の土あげ・土入れ作業を確実かつ効率的に実施するためには深耕（20cm 以上）が必要だが、出力の高いトラクターの導入により施工環境が整っている。

### （２）播種

毎年、種子更新を行うとともに農協施設を利用して種子消毒も徹底している。10 月中旬の水稲収穫後、計画的に耕起作業とほ場の準備作業を行い、播種適期の11 月中旬から12 月上旬までに播種作業を完了できるよう作業計画を策定して、出芽率の確保に向けて細心の注意を払っている。

良質麦生産のため、早播を避け、適期播種に努めているが、降雨などにより播種が遅れる場合や湿害の出やすいほ場は、播種量を0～2 kg/10a 程度増量するなど、出芽数の確保に努めている。

### （３）雑草及び病虫害防除

雑草防除はJ A栽培指針に準じ、播種前や播種後の雑草に茎葉処理の除草と処理層を形成する除草剤で初期の雑草を確実に抑えるようにしている。出穂期以降に発生するカラスノエンドウは、収穫前にはほ場巡回し手作業で除去し、次作以降での発生を低減させている。

病虫害防除は、出穂期の赤かび病防除をJ Aに無人ヘリ防除を委託し省力化を図っているが、発生の状況に応じて自身でも追加防除や応急防除を機動的に実施している。

### （４）麦踏み・施肥

麦踏みは、ほ場の状況に応じて回数を調整（最大3回実施）して、茎葉の確保と倒伏防止に努めている。また、労働コスト低減のため、基肥一発肥料を播種同時施用しているが、穂肥施用時期には、各ほ場の生育状況と葉色を見ながらJ A指導員に相談し自身の経験の中から追肥の量を判断し、必要なところは

動散による穂肥施用を行っている。

#### (5) 適期収穫

はだか麦は収穫時期の降雨により収量や品質が低下しやすい。このため、成熟期前になると常にはほ場巡回を実施し、ほ場ごとの成熟具合と天候を把握し、コンバイン2台で迅速に収穫作業を行っている。喫緊の状況においては、共同作業で使用している汎用コンバインを借用して更に作業スピードを上げることもある。

#### (6) コストの低減と省力化

管理コストを低減するために基肥一発肥料による播種同時作業や除草剤のブームスプレーヤーの利用、赤かび病の防除のへり防除委託、全量カントリーエレベーターの利用など労働時間や労働費の削減に徹している。なお、就農当初の経営面積では全て自身で作業していたが、規模拡大に伴い作業委託など積極的に活用することで自由に作業できる時間を確保して、精細管理の徹底に努めている。

#### (7) スマート農業機器の導入と活用

令和7年2月に収量コンバインを導入し、令和7年産麦の収穫に使用、ほ場管理システム(KSAS)との連携により、ほ場ごとの収量データの収集に取り組み始めた。今後、ほ場ごとに施肥量を調整し、水稻作において土壌の平準化を進め、収量及び品質の向上、さらにコスト低減に取り組む。

また、自動操舵型のトラクターを導入して、作業の精密性の向上とオペレーターの操作時の負担軽減を図っている。

### 3. 収量性の向上、品質改善

令和6年産麦については、冬季の高温による生育が進み春先の降雨による湿害、出穂後の降雨による赤かび病の発生、収穫期の降雨による品質の低下等で、収量・品質とも最も低い状況であった(県内平均単収 216kg/10a、1等比率 8%)。氏の単収は 278kg/10a と県平均に対し 128%で、管内カントリー全量2等であった。

令和7年産麦については、単収は 367kg/10a、全量1等となった(県内平均収量 327kg/10a、1等比率 93%であり、県平均単収に対し 112%)。

これらは、徹底した排水対策、中間作業(土入れ・麦踏み)、適期収穫等に努めた結果であり、特に不作年(令和6年度)に明確に表れている。

#### 4. 労働時間の軽減

10a 当たりの所要労働時間は 3.92 時間（愛媛県平均 5 時間）である。播種時の耕起、播種、施肥、鎮圧、溝堀りの播種同時作業機やブームスプレーヤーの利用、無人ヘリ防除やカントリーエレベーター利用による労働時間を削減に加え、スマート農業機械の導入などさらなる労働時間の短縮と効率化を図っている。

#### 5. 今後の麦作への取組み

はだか麦の栽培面積は、令和 4 年産の 822a から令和 7 年産は 1,012a と 3 年間で 1.2 倍となった。これは氏の住んでいる市街地において農家の高齢化が進み周辺農家からの農地の貸付けの希望が多くなったからである。今後も農地の委託希望の増加が見込まれ、地域で管理農地が出ないようできる限り受託し、団地化を図りながら規模拡大が望まれる。

なお、令和 7 年度の水田面積は 2,009a であり、地域やほ場の状況により、水稲＋麦、水稲単作、麦単作、里芋の作付を振り分けている。麦の栽培面積 1,012a のうち水稲＋麦の二毛作は 885a となっており、今後も水稲＋麦の二毛作体系を基本に作付を拡大する意向である。

また、令和 7 年産はだか麦の品質は 1 等 A クラスであり、収量及び品質が高ければ、粗収益及び所得が期待できる。

また、既存の収量コンバインとは場管理システム（KSAS）による、ほ場ごとの収量データの収集を開始し、水稲は、可変施肥田植機の導入を予定しているため、水稲で肥沃度の均平化ができれば後作の麦にも有効であり、生育が揃い施肥作業の効率化と収量・品質の向上が見込まれる。

現在、労働力は、本人、妻、常時雇用、臨時雇用であるが、常時雇用者に対し、冬季の仕事や収益を考える必要があり、里芋等、野菜栽培についても検討するとともに、テラーによる麦踏み作業、管理機による溝切り、土入れ作業の効率化を図り、労働時間及びコストの軽減を進める。

#### 6. その他特記事項

西条市は愛媛県を代表する穀倉地帯であり、古くから水稲と麦の二毛作は収益的に必要不可欠であり、規模拡大を図るうえで進められてきた。しかし、中心部及び海岸部は商工業地域であり、農家の高齢化が進む中、離農や都市化が進み農業者は農地の委託を希望し、今後も農地の受託希望の増加が見込まれる。氏が農業を継続することにより、地域の農業の継続にもつながっている。

氏は、就農後、積極的に地域の篤農家の作業を観察したり指導を仰ぐことで、常に技術向上に努めてきた。さらに、東京の日本農業経営大学のセミナーに

も参加するなど、農業技術だけではなく最先端の経営戦略の習得にも余念がない。

後継者養成に関して、常時雇用の男性が 30 代の縁戚者であり、将来独立し地域を担っていけるよう氏が指導している。

なお、JA えひめ未来の麦作部会長及び愛媛県農業指導士(令和 3 年度認定)、西条地区認定農業者連絡協議会西条市会長を努め、農業の新技術の実証を受け入れ米麦の技術向上に貢献していることはもとより、研修生や認定農業者の研修受け入れなど地域のリーダーとして人材育成に取り組んでいる。

**執筆者：愛媛県東予地方局農林水産振興部  
農業振興課地域農業育成室 成松克史**

7. 耕種概要

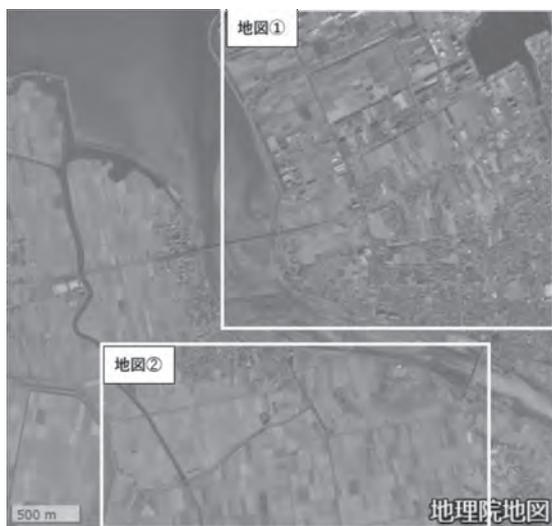
前作の栽培状況等	作物名 水稻	収穫期 (水稲)9～10月	収量(10アール当たり) (水稲)510kg	有機物及び土壌改良材の種類と施用量 稲わらのすき込み、粒状苦土石灰120kg/10a
耕起、整地、播種	種子予措の方法	ベンレートTコートの子紛衣		
	耕起整地及びうね立の有無	トラクターによるロータリー耕(中溝切)、うね立て無		
	播種時期	11月19日～12月10日		
基肥	播種量	8～12kg/10a		
	肥料名(有機物、土壌改良資材含む) 施用量(10a当たり)	スーパーSRコート43 50kg	kg	化学肥料合計 N 7kg P 7kg K 6.5kg 施肥方法 播種同時施肥
管理	作業名 (中耕、土入、踏圧、除草等)	実施時期及び方法 踏圧:1月5～22日(1回目)、1月23～26日(2回目)、2月27、28日(3回目) 土入れ:1月10～20日(1回目)、2月6～20日(2回目) 除草剤:播種前 クサクリーン 11月21日～12月13日ブリグロックスL、リベーターフロアブル		
追肥	施用時期	3月5日		施肥方法
	肥料名	高度化成444		化学肥料合計 N 2.8kg P 2.8kg K 2.8kg (穂肥)動力散布機
	施用量(10a当たり)	20kg		
病虫害防除	病名 赤かび病(はだか麦1回) 害虫名	実施時期及び方法 (薬剤名、10a当たり使用量、散布機械等) 4月10日 ミラビスフロアブル、0.8L、無人ヘリ		
後作物	作物名 水稻	種付時期 移植:6月初め～		

## 8. 農業機械利用状況

作業名	使用機械名	型式、規格、馬力	台数			稼働面積 a	稼働期間 月 日～日	実稼働日数	備考
			個人有	共有	借用				
暗きよ設置	トラクター、サブソイラー	58ps	1			1,012a	10月30日～11月5日	5	
土改資材散布 (苦土石灰)	トラクター、ブロー トキヤスター	45ps	1			1,012a	11月6日～11月9日	3	
耕起	トラクター、ロータ リー	58ps 60ps	2			1,012a	11月19日～12月10日	5	
基肥・播種	トラクター、播種機、 肥料散布機	45ps 1.8m8条播き	1			1,012a	11月19日～12月10日	4	
除草剤散布	ブームスプレヤー	トラクター後ろ付け	1			1,012a	11月21日～12月13日	4	
踏圧(1回目)	ローラー、麦踏 ローラー		1			1,012a	1月5日～22日	4	
溝堀土入れ	管理機		1			1,012a	1月10日～20日	6	
踏圧(2回目)	ローラー、麦踏 ローラー		1			1,012a	1月23日～26日	3	
溝堀土入れ	管理機		1			1,012a	2月6日～20日	6	
踏圧(3回目)	ローラー、麦踏 ローラー		1			1,012a	2月27日、28日	2	
穂肥(必要ほ場)	動力散布機		2			1,012a	3月5日	1	基肥一発肥料を使用。葉 色により施用。
防除	無人ヘリ					1,012a			無人ヘリをJAに委託
除草	手抜き、草刈り機		3			1012a	5月10日～15日	5	カラスノエンドウ抜き取り等
刈取り、脱穀	普通型コンバイン	5条 4条	2			1,012a	5月17日～6月9日	5	
運搬	軽トラック		2			-	5月17日～6月9日	5	
乾燥・調製	コントリーエレベーター					-			JAに委託

9. 令和7年産 麦作付圃場図

西条市（加茂川河口付近）



地図① 西条市（港新地、樋之口、古川）



地図② 西条市（港新地、樋之口、古川）

